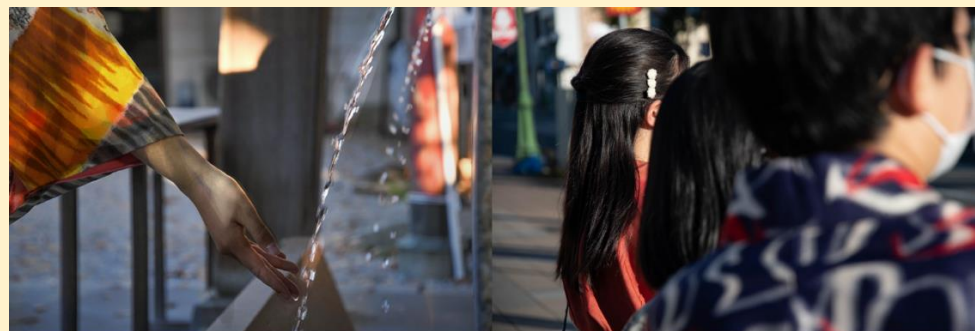
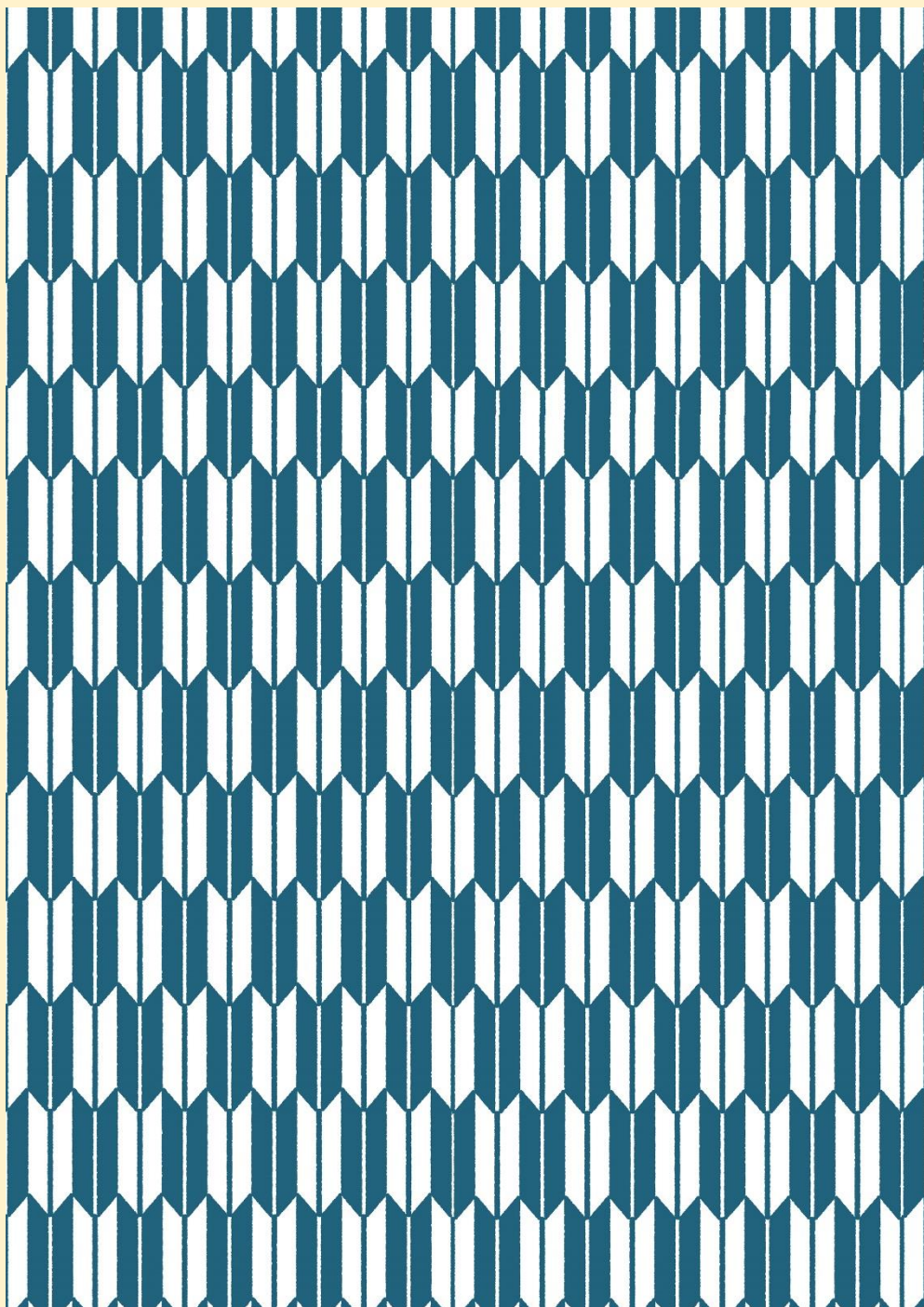
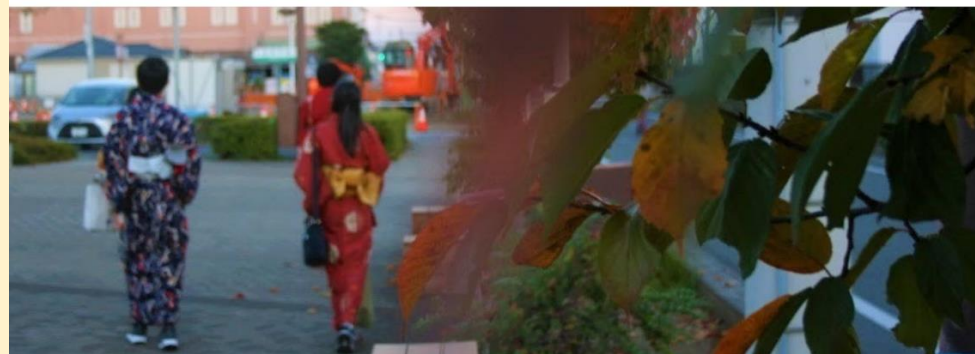




銘仙のまち

伊勢崎を歩く

Yotsuba Gakuen
Historical Science Society of Isesaki



第一章

着物のまち、いせさき。

火山灰地で水はけのよい土地が広がっていた伊勢崎市では、古くから桑の栽培、養蚕が盛んに行われてきました。明治以降には、「伊勢崎銘仙」により広く伊勢崎市の名が知られるようになります。銘仙の文化がなくなった現在も、歴史ある建物が多く残っています。さあ、歩いてみよう、歴史を探して。

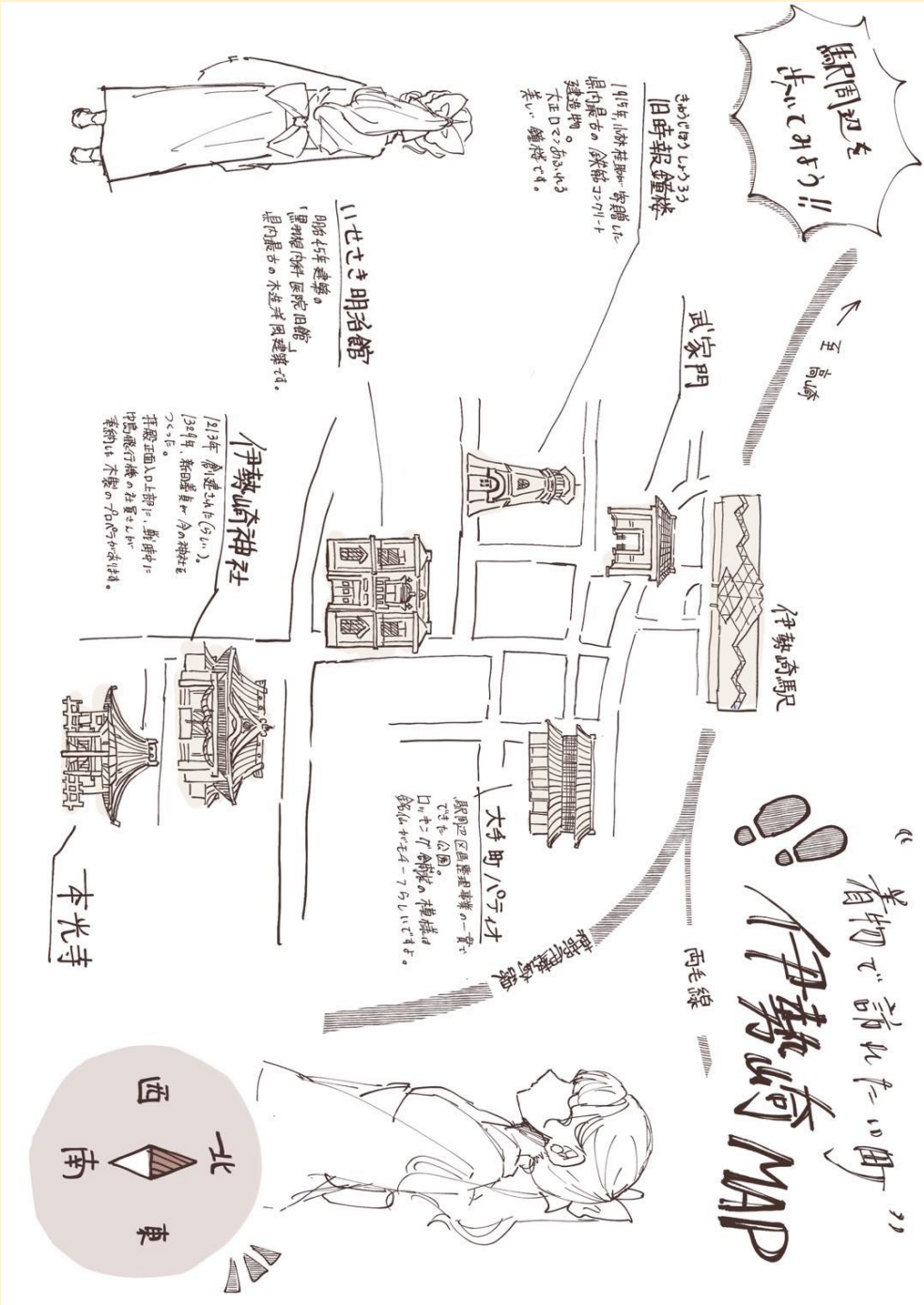
最終章

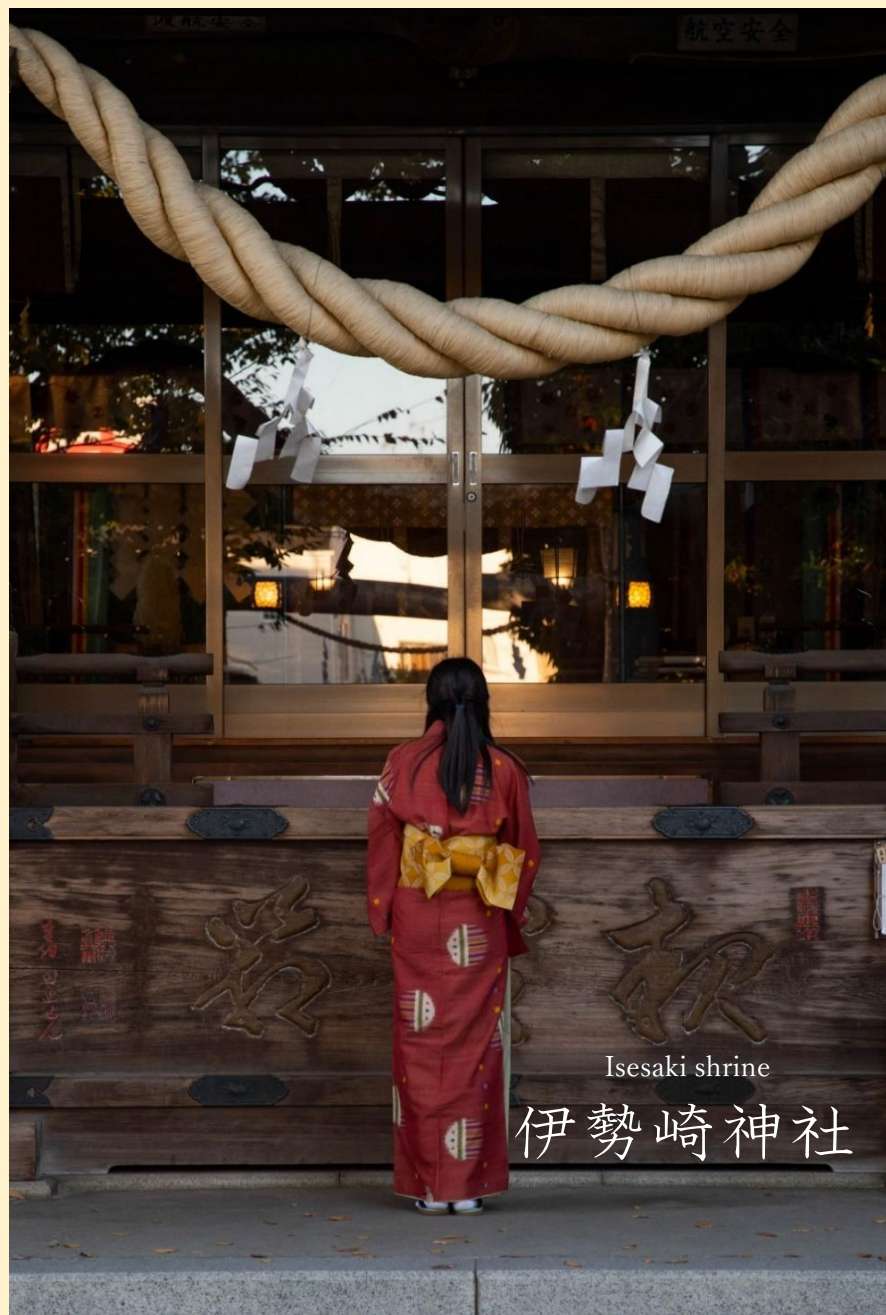
伊勢崎市の魅力は伝わりましたか？
ぜひ、街を歩いて、たくさんの歴史に触れてみてください。
また、今後も進化を続ける「着物のまちいせさき」と地域歴史研究会を見守っていただけたらうれしいです。

地域歴史研究会について

県内各地から通ってくる四ツ葉生のうち、歴史や地元に興味のある人が集まって活動しているもので、住む場所、好きな時代、好きな国やその歴史、お気に入りの偉人は皆それぞれです。それゆえ、活動の幅は無限大です。そんな地域歴史研究会、通称「歴研」は、「歴史研究を通して高校生らしいアクティブな活動で、地元に変革を起こそう。」を活動理念としています。歴史への堅苦しいイメージや、若者と歴史との間に距離がある現状を打破すべく、歴研を中心とする歴史の継承システムの確立を目指し、日々活動しています。

製作:伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校
撮影協力:相川考古館,赤石屋,いせさき明治館,茂木園
取材協力:伊勢崎市,赤堀歴史民俗資料館,かすり工房さいとう





伊勢崎銘仙を着て歩く



境赤レンガ倉庫



©Isesaki City

大正8年（1919年）に繭の保管庫として建設された、レンガ造りの倉庫です。現在では、市民の交流や地域活性化のための施設として活用されています。また夜間には建物がライトアップされて、幻想的に彩られます。

田島弥平旧宅



田島弥平が近代養蚕には自然の通風が重要であるとして「清涼育」という養蚕法や、近代養蚕農家建築最大の特徴であるヤグラ付き総二階建てを開発した原点となった邸宅です。世界遺産に登録されています。江戸時代中期から蚕種製造の盛んな地域で、田島家も有力な蚕種製造農家でした。

忠治茶屋

国定忠治が御用になった家屋が解体された際、その資材を用いて店舗を建築したことが名前の由来。上州名物焼きまんじゅうの名店として広く知られています。



Isesaki-Meijikan

いせさき明治館





Bukemon Gate of Dojuin

同聚院の武家門



境

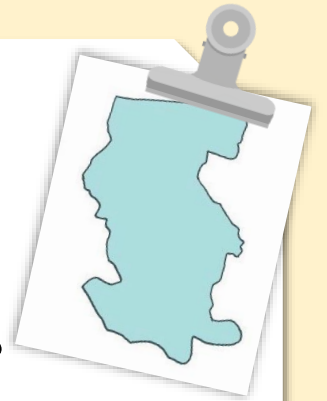
市内最南端に位置するこの地区では、利根川の度重なる洪水により農業は困難であり、暮らしは決して楽なものではありませんでした。

しかし、養蚕業を村一体で取り組み、世界に誇る島村の蚕種を生みだすことに成功します。

また、画家金井島洲の生まれとしても知られています。

昔から養蚕地域ということもあり、外国との交流が盛んだったこの地域では、自由民権運動の舞台にもなりました。

是非町並みから漂う昔風情を全身で感じてみてください。



↑ 島村渡船

十三宝塚遺跡



上野国分寺造営に協力した佐位郡司が建立したとされる奈良・平安時代の寺院跡です。中心伽藍より北、東部では集落や掘立柱建物の遺構も検出されており、寺院を支えたムラが形成されていたと考えられます。寺院建立以前北側には、東山道駅路がありましたが、その廃止後、北側溝を利用した灌漑用水路・牛堀が使われ、その遺構が残っています。

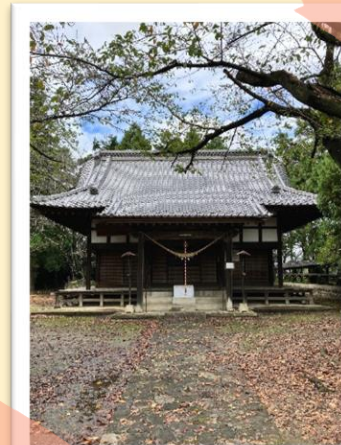
上野国佐位郡正倉跡、上植木廃寺

三軒屋遺跡とも呼ばれ、7世紀後半から10世紀前半に使われていた古代佐位郡の役所跡です。北1kmには同時期に創建された上植木廃寺が存在し、郡の寺としての役割を担っていたとされています。この地域が古代伊勢崎市の中心であったとみられています。



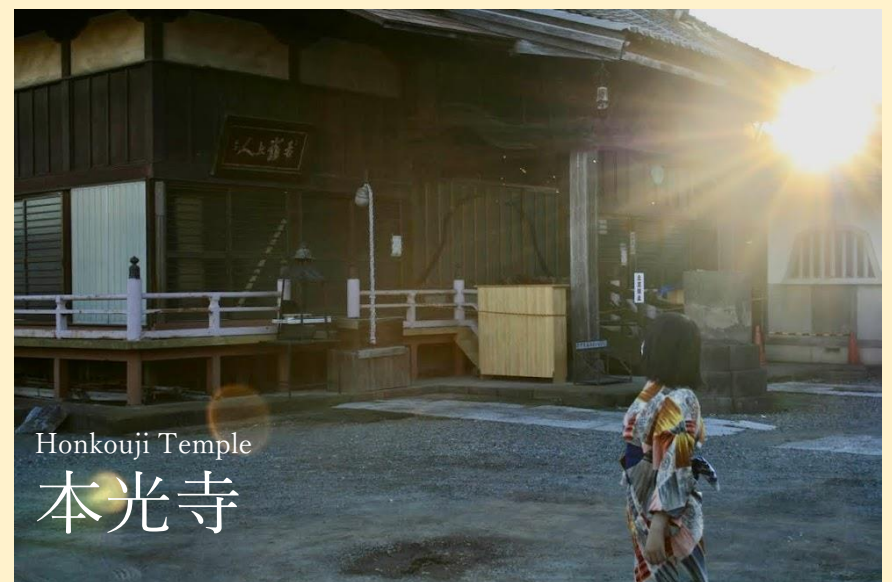
倭文神社

大和王権時代、この地に配された機織や裁縫の技術を伝えた倭文部の創祀した神社と推測されています。戦国時代に荒廃しましたが、江戸時代に慈眼寺を別当として再興します。倭文部は朝鮮文化と関りがあることから、古代に絹製品の製造をした地と考えられています。



かすり工房さいとう

平成27年に群馬県の文化奨励賞を受賞した伊勢崎絣職人、斎藤定夫さんの工房です。伊勢崎絣の生産がほとんどなくなった現在でも伊勢崎絣の製作や継承活動を行っています。





Otemachi-Patio 大手町パティオ



旧市内

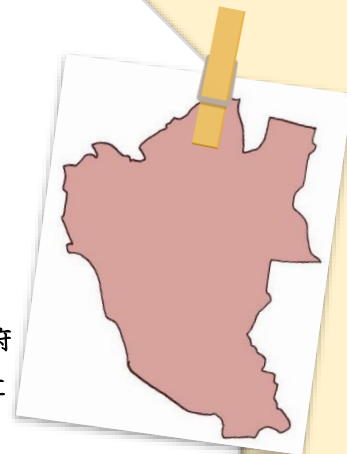
この地域古代は巨大古墳が築かれ、飛鳥時代以降は郡の役所が置かれた政治の中心地として栄えました。鎌倉時代には三浦氏が神社の創建など都市整備を行いました。

伊勢崎藩藩主に、初期は稲垣氏が就きましたが、稲垣氏が去った後、譜代名門酒井氏が長年務め、幕府との関わりも深くなります。小藩でありながら文教政策に優れ、多くの藩校や郷学があったと伝わります。

明治時代からは織物産業が急激に発達し、産業の中心地としてもその地位を確立します。

現代でも古墳や寺院、絹産業遺産の痕跡が数多く残り、この地域の長く濃い歴史を今日の私たちに伝えます。

三浦義澄→



お富士山古墳



5 世紀前半に築造された全長 125 メートルの古墳です。前方部の一部が両毛線により切断されていますが、はっきりと前方後円墳だとわかります。後円部頂上の富士神社そばには、関東では 2 例を数えるのみの、県指定重要文化財・長持形石棺(通称：大王の棺)があります。桜の名所としても知られています。

鶴巻古墳



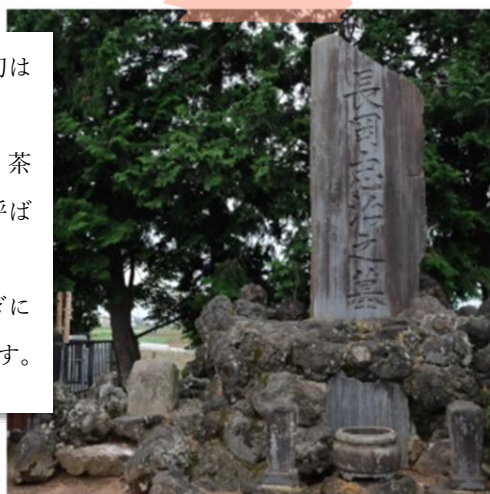
約 1400 年前に築造された円墳です。榛名山の噴石を使用した石室を持ちます。この地域で現存しているのはこの古墳のみです。かわいらしいシルエットで地元の人から愛されています。

国定忠治の墓(養寿寺)

養寿寺は、東山道の近くにあり、創建当初は「相応寺」と称されていました。

鎌倉時代には源義経がこの寺に立ち寄り、茶を飲んだことから「茶呉山相応寺」とも呼ばれました。

また、名博徒忠治とゆかりがあり、験担ぎに墓石を削る人も多く、その痕跡が見られます。



©アイマップネットワーク

Kakaa-Zou-Square

かかあ像広場



市街地おすすめの店紹介



親玉商店

駅前にある手作り和菓子のお店。一番人気は「みそ饅頭」。白餡にみそを合わせた甘しょっぱい味は群馬県民との相性抜群。他にも紫いも饅頭、くわまるまんじゅうなど豊富な品揃えです。隣接するコーヒールームで一息つこう。

茂木園

創業から 136 年、「普通蒸し」に拘りぬいています。上級煎茶の「雪あさま」は茂木園を代表する人気商品。本店に行くとお洒落な店内で抹茶ラテなどドリンクも味わうことができます。無料で「お茶の美味しい淹れ方教室」も開催(要予約)。



松露庵

明治 37 年創業の老舗和菓子屋。天皇陛下献上銘菓製造本舗として有名です。数あるお品の中でも「絹衣」はとても有名な一品。他にも、「赤城もなか」「赤城しぐれ」などの伝統的な品に加え、ぐんまちゃん最中も販売しています。

赤城せんべい本舗

緑町にある、長い歴史を持つ煎餅屋。原料からこだわり、秘伝の焼き方で謹製された煎餅は絶品。四季折々の味を体感できる。季節限定品の「ゆず煎餅」は毎シーズン売り切れ必須の人気商品。



あずま

あずま地区では、古代には**東山道**が通り、遠く京都との交流がありました。

また、この地に生まれた**国定忠治**は演劇の題材としてもよく知られています。

また、アテネ五輪に出場した**諏訪利成**選手や、全国優勝を果たしたミニバスケットボールチームなどが活躍する地域でもあります。



小泉稲荷神社



群馬県最大の大鳥居を筆頭に、大小 200 基以上の鳥居が立ち並ぶ姿は、見る者を圧倒します。春には桜、秋にはコスモスが咲き、「映えスポット」として多くの若者から注目を集めています。

赤堀茶臼山古墳、毒島城址



多田山に位置する前方後円墳です。5世紀中頃の築造と考えられ、出土した家形埴輪は当時の豪族の生活を知る上で重要視されています。

毒島城跡は円錐台形をしている水田に囲まれた城跡です。そのため元は沼の浮島であったと推測され、出入口が1か所だけの守備に優れた城だったのでしょう。

天幕城跡(あかぼり蓮園)



©Isesaki City

この城は自然地形を利用した城です。西側は蕨沢川が、北と東側は蕨沢川の旧河道の低地が広がっていることで、城外と隔てられています。北、西面には今も高さ4メートル程の土塁が残っていて、軍事的な構造が顕著に見られます。外堀跡を利用し中国蓮を植え付けてあり、自然豊かな磯町を鮮やかに彩ります。



第二章

この章では、

赤堀地区、あずま地区、伊勢崎地区、境地区のそれぞれの歴史について紹介していきます。
(歴史を愛し、歴史に愛された高校生の集団「歴研」の知識を最大限に活用して製作しております。)
伊勢崎市の歴史について知り、それをきっかけに市内の魅力ある場所に赴いていただけたら幸いです。

赤堀

ここは度々日本の考古学に衝撃を与えてきました。

帝室博物館(現東京国立博物館)初の発掘調査は赤堀茶臼山古墳で行われ、代表的な出土品は東京国立博物館の考古学展示室で大々的に展示されていることもあります。



赤堀地区は大小さまざま貴重な古墳が残っています。古墳群の中には、墳丘を改良し築城したとみられる毒島城跡もあります。
また、女堀は後鳥羽院中宮と関わりがあり、西国との結びつきもあったともわれています。

女堀 赤堀花しょうぶ園



国指定史跡の女堀は12世紀中頃に開削された農業用水路で、淵名荘の開発のためのものと考えられています。
初夏には白や紫などの花しょうぶが約500メートルにわたり一斉に咲き誇り、幻想的です。

©Isesaki City